

釧路市への 観光消費による経済波及効果

釧路市では、現在、「第二期観光振興ビジョン」として、釧路市民みんなが観光振興の担い手となり、経済波及効果を基準年次の2倍(約500億円)とすることを目標に、さまざまな観光振興施策を進めています。

そこで、釧路市における来訪客による観光消費の実態やこれによる経済波及効果を把握し、今後さらに経済波及効果を高めていくためのシミュレーションなどを行いました。

水のカムイ観光圏
(一般社団法人釧路観光コンベンション協会)

POINT

観光消費による経済波及効果がなぜ重要なのか？

観光は地域外から収入を得ることができる重要な手段の一つです！

釧路市を訪れた人が市内のホテルに宿泊した場合を例にすると、来訪者が支払った宿泊料金はホテルの収入となり、その後、ホテルの従業員の所得となります。また、従業員はその所得で、釧路市内で日用品などを購入して市内での消費が生まれます。これにより、市内の商業やサービス業が収入を得て、これらの産業に従事する人の所得となり、さらに市内での消費が行われて「循環」が生み出されています。

釧路市の人口が減少し、市民のみで消費の循環を拡大することが難しい昨今において、観光は、釧路市「外」から稼ぐことができる重要な産業の一つであるといえます。

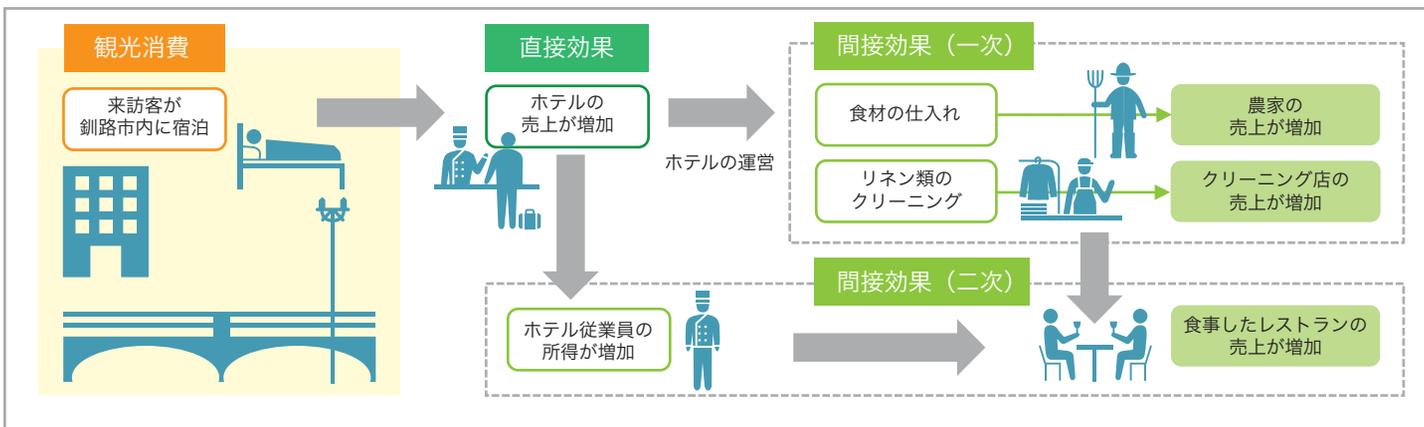
POINT

観光消費は観光関連産業だけでなく幅広い産業に波及していきます！

宿泊施設を例にすると、宿泊施設で食事を提供する場合、食材を仕入れる小売業、さらに小売業は農家などから仕入れを行っています。また、施設を運営するためには、水道光熱費も発生するため、電気・ガス・熱供給・水道業にも波及します。

観光消費は観光関連産業だけでなく、幅広い産業に波及する裾野の広い産業であるといえます(図表1)。

■図表1 観光消費による経済波及効果イメージ図(宿泊を例として)



POINT

観光消費による経済波及効果はどのように高められるのか？

①来訪客数、②1人当たりの消費単価、③域内調達率をバランスよく高めることが重要です。

経済波及効果を高めるにあたっては、来訪客数、1人当たりの消費単価、域内調達率(地域内から原材料や雇用者を調達する率)の3つの視点が重要です。

例えば、釧路市にたくさんの人が訪れたとしても、これらの人が釧路市内であまりお金を使わなければ、観光消費額や経済波及効果は低くなってしまいます。また、レストランが市内から食材の調達をしたり、市民を雇用することによって、地域内に留まるお金が多くなり、経済波及効果は高くなりますが、これらを市外から調達すると、市外に流出する金額が多くなってしまい、経済波及効果は低くなってしまいます。このように、経済波及効果を高めるにあたっては、来訪客数、消費単価、域内調達率をバランスよく高めていくことが重要となります。

釧路市を訪れる来訪客数と消費実態

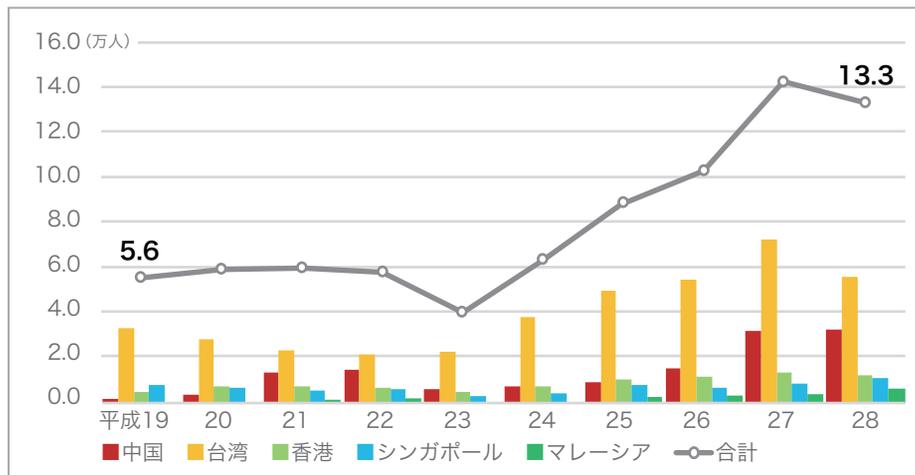
～宿泊客の消費額 日本人は**36,374**円、外国人は**25,777**円

来訪客数の現状と推移

釧路市の入込総数は平成11(1999)年の470万人をピークにその後減少傾向にありましたが、東日本大震災が発生した平成23(2011)年以降は増加しています。平成28(2016)年には約460万人となりました。なお、入込総数に占める日帰り客数はおよそ7割程度、宿泊客数は3割程度を推移しており、大きな変化はありません。

平成28(2016)年に釧路市を訪れた外国人延べ宿泊客数は13.3万人で10年間では2.4倍に増えています(図表2)。主要な市場は台湾となっていますが、近年では中国からの来訪者も増加しています。

■図表2 釧路市を訪れた外国人延べ宿泊者数

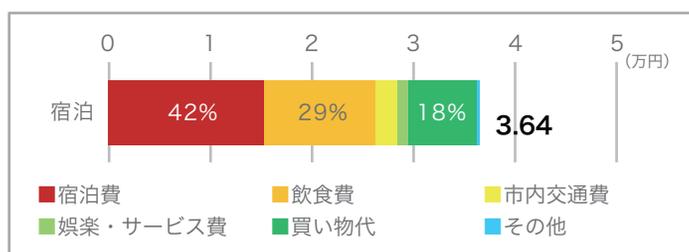


来訪客の消費額

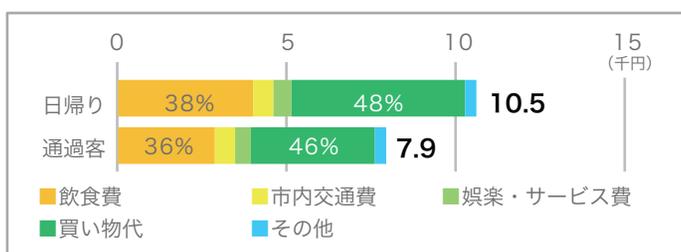
日本人^{*1}の宿泊客は1人当たり平均36,374円を市内で消費しています(図表3)。日帰り客は10,532円、釧路市外で宿泊し、移動の途中で釧路市内に立ち寄った通過客はおよそ7,915円(図表4)、外国人^{*2}の宿泊客は1人当たり平均25,777円、日帰り客は6,529円と推計されます。

釧路市で宿泊した日本人のうち来訪目的別の総消費額では、「観光」が3.5万円、「ビジネス」は3.7万円となりました(図表5)。また、来訪経験別では、10回以上釧路を訪れたことがある来訪客は総消費額が高く、費目別では飲食費や買物代にお金を使う傾向がみられます(図表6)。

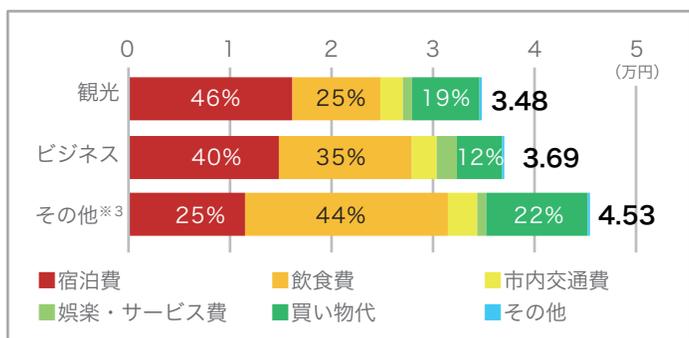
■図表3 日本人の宿泊客の消費額



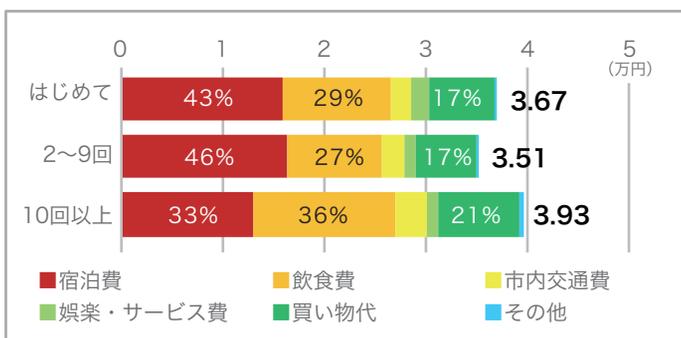
■図表4 日本人の日帰り・通過客の消費額



■図表5 日本人の来訪目的別消費額 (宿泊客)



■図表6 日本人の来訪経験別消費額 (宿泊客)



^{*1} 日本人の消費額は2016年9月～2017年8月までの間に釧路市に来訪経験がある15歳以上の男女(釧路市及び近隣市町村に居住している人を除く)を対象としたインターネット調査を実施し、釧路市内での消費額(費目別)について尋ね、その結果を用いて推計した。

^{*2} 外国人の消費額は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の平成27～29年7-9月期までの11四半期分のサンプルから釧路市内の来訪経験がある人(256サンプル)の釧路市内での消費額(総額)を用いて推計した。なお、釧路を訪れた外国人による観光消費額推計にあたっては、道外日本来訪客の費目別構成比を乗じて算出した。

^{*3} 「その他」の詳細な構成比は「親族・知人訪問」(70%)「学校関連の旅行」(2%)「イベント」(8%)「スポーツ・合宿」(9%)「その他」(11%)

釧路市を訪れる来訪客の 経済波及効果・雇用誘発効果

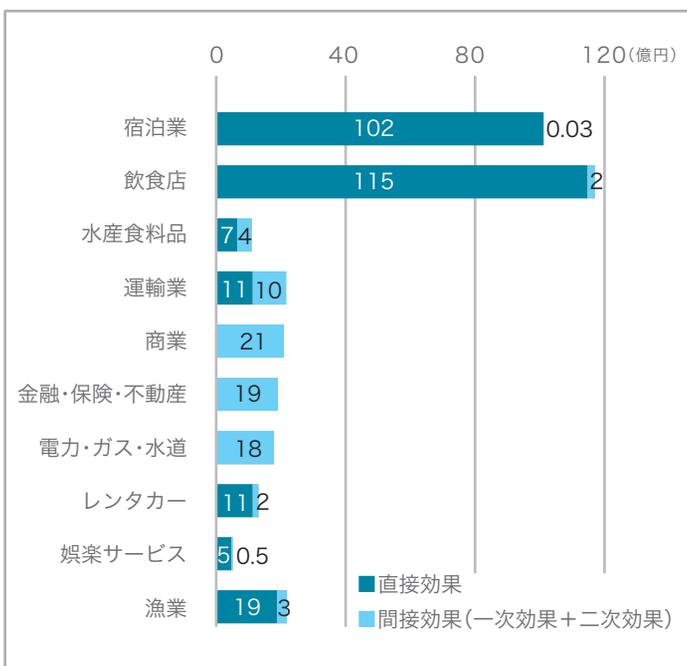
～生産波及効果は**422億円**、雇用誘発効果は約**4,000人**

観光消費額と生産波及効果

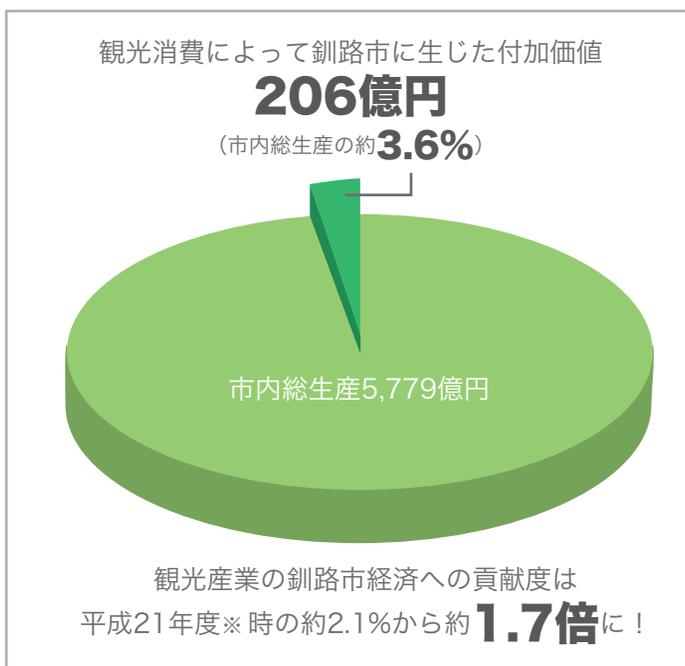
釧路市の来訪客が市内で消費した金額(観光消費額)を合計すると年間365億円と推計されます。この観光消費額から市外へ流出する分を除いた金額「直接効果」は286億円となります。観光客から直接収入を得る産業は宿泊業、飲食店、運輸業などが中心となりますが、これらの産業が市内の様々な事業者から仕入れを行うことによって、幅広い産業へと経済効果は波及していきます(図表7)。

これらの波及効果を合計すると、観光消費が釧路市にもたらす生産波及効果は422億円、観光消費によって釧路市内に生じた付加価値効果は206億円と推計されます。これは市内総生産5,779億円(平成26年)の3.6%程度に相当します(図表8)。

■図表7 産業別経済波及効果



■図表8 観光産業の釧路市経済への貢献度



※観光消費による付加価値効果は平成21年、市内総生産は平成18年の数値を用いて推計



雇用誘発効果

観光消費額365億円から、約3,000人の雇用機会が、さらに釧路市内の幅広い産業への波及効果まで含めると約4,000人の雇用誘発効果が生じています。直接効果が高いのは宿泊業で1,050人の雇用機会を生み出しています。



釧路市を訪れる来訪客による 経済波及効果アップシミュレーション

～第二期観光振興ビジョンの実行による経済効果の拡大

第二期釧路市観光振興ビジョン(計画期間:平成29～38年度、以下「第二期ビジョン」)では、釧路市の観光が目指す将来像について「みんなが担う、みんなが育てる観光産業により持続可能な自立型の地域経済の実現」を目指すことが記されており、これを実現するため、3つの分野、9つの戦略、40の施策が展開されています。

今後第二期ビジョンを実行していくことにより、どの程度の経済波及効果が期待できるか、第二期ビジョンの中で掲げられている「標的とする市場」や40の施策の内容を踏まえ、以下の2パターンで経済波及効果アップシミュレーションを実施しました。

シミュレーション1

釧路市がターゲットとする客層の取り込み

今後、釧路市では、国内からは首都圏や道内からの消費単価が高い宿泊客を、海外からは、来訪実績があり、成長著しい東アジア市場を引き続き獲得していくとともに、新規開拓市場として経済発展が著しいアジア圏の新興国や地域特有の文化への関心を示すことが見込まれる欧米豪圏域の獲得も積極的に取り組んでいく予定です。以上を踏まえ、以下のとおりシミュレーションを行いました。

日本人宿泊客数の**10%**(約6万人)が
消費単価**5,000円増**(人回)

外国人宿泊客数が**2倍増**(約17万人:2倍増後の人数)
(消費単価は現状と同額と仮定)

組み合わせると
…

生産波及効果**31**億円増
付加価値効果**15**億円増
雇用誘発効果**291**人増

シミュレーション2

釧路市の食の魅力向上

釧路市ならではの「食」という地域資源を活かすため、今後は、食材の域内調達率や付加価値の向上、地場商品の商品化などにさらに積極的に取り組んでいきます。

来訪者の「食」に対する期待も大きいのが釧路市の特徴です。今回の調査では、期待していた活動として「食・グルメ」を挙げる人が6割と数ある活動の中でも選択率が高く、釧路産食材に割増料金を支払ってもよい人の割合が全体の半数を超えるなど「食」への期待が大きいことが確認されました。一方、菓子類においては、釧路の商品よりも道内の有名店の商品を購入する傾向があるなどの課題が確認されました。

こうした現状を踏まえ、食材の域内調達率を上げ、来訪者の半数程度が割増料金を支払うと仮定して以下のとおり、シミュレーションを行いました。

食材の域内調達率が**10%増**※

日本人宿泊客数の**50%**(約30万人)が
飲食費**15%**(約**1,600円**)増(人回)

外国人宿泊客数の**50%**(約4万人)が
飲食費**15%**(約**1,000円**)増(人回)

組み合わせると
…

生産波及効果**19**億円増
付加価値効果**8**億円増
雇用誘発効果**148**人増

※ 釧路市産業連関表の中から食料品に関係する「農業」「漁業」「と畜・肉・酪農」「水産食料品」「その他の食料品」「飲料」の自給率を現状から10%増と仮定して推計。